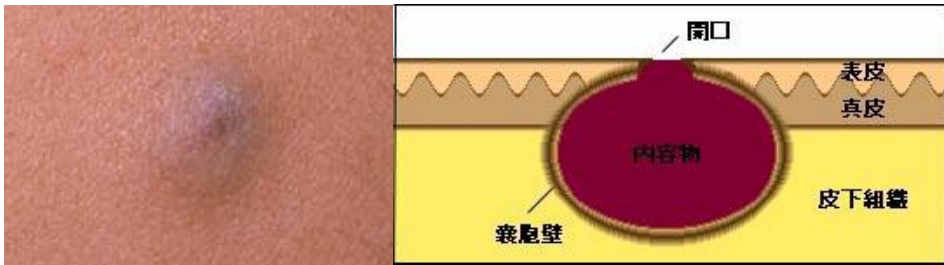


# 皮膚の下のできものはありますか？

皮膚科・形成外科を受診される方で多い皮膚腫瘍の一つに粉瘤（ふんりゅう）というものがあります。全身の皮膚どこにでも生じる良性のできもので、必ず切除しなければいけないものではありません。感染を起こしやすく、その場合急に大きく腫れて痛みを生じます。粉瘤を見つけたら、なるべく早く小さなうちに切除した方が傷も目立ちにくくよいと思われれます。

粉瘤ができると中身を押し出している方を見かけますが、粉瘤を強く絞ると中身が排出され、一時的に小さくなりますが、膜（被膜）が残っている限りすぐにもとの大きさに戻ってしまいます。絞っているうちに感染をおこして大きく腫れあがってしまうこともあります。

**粉瘤ができて決して絞らないように心がけてください！**



## <粉瘤の摘出の実際>

粉瘤は薄い膜できており、膜の一部は皮膚に癒着して（くっついて）います。その部分の皮膚と一緒に切除しないと再発します。感染がなければ膜は周囲の組織から簡単にはがれてきれいに摘出できます。

感染をおこす前の粉瘤は周囲との癒着がないので小さな切れ目から腫瘍を取り出すことが可能ですが、一旦感染すると周囲の組織と癒着を起こすため少し大きめに切れ目を入れて、周囲の組織も一緒に摘出しないと完全には取りきれません。

## <感染してしまったら>

感染して腫れあがったら、感染を抑える必要があります。炎症がわずかな場合には抗生物質の内服だけで落ち着きますが、ほとんどの場合、粉瘤の中に膿が溜まってくるので、切開して膿を排出する必要が生じます。一旦感染が完全に治まると、粉瘤は小さくしぼんだ状態になりますが、被膜が残っているため再発し、また大きくなってしまいます。

小さくなくても安心しないで、再発しないように完全に切除しておきましょう。

**しんおおさかクリニック**